お・も・し・ろ・人立 めだかの学校だより

令和８年11月１日
第133号
学舎：周智郡森町
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田529-20
TEL:0539-62-6691

校長訓話

第一三三回　校長　中村　明男

「私を変えたひと、こと」

生まれは、遠州横須賀（掛川市）、和菓子製造「吉田屋」次男。長男が幼児で、亡くなった為、７代目として家業を継ぐ予定が、高校生の時、家業が連鎖倒産。大阪で、商売学ぼう夢、やむなく、近場の浜松の企業、日本楽器（現ヤマハ）入社。これが最初の転機。３年目若者は、現場で、学べとの命で、松菱前、浜松店。このことが、生涯活きている。

当時、60年代ベンチャーズ、ビートルズ来日と日本中をポップス大旋風を巻き起こる。60年代半ばには、学生中心にフォークブームが、巻き起こる。若者は、猫も杓子もギターを買いに来られた。その後、広島・東京・名古屋で、系列特約店卸業務サポート、音楽普及（ポプコンつま恋・イーストウエスト）に携わる。

90年代、その当時の若者が、子育てが一段落、再びギター、ドラム、サックスなど持ち出し、楽しみ始める。会社も大人の音楽教室で、拍車をかけ、その命で、浜松店現場に戻る。昔の知り得たご縁で、講師依頼、逆にライブ活動のサポートの話が、次々と舞い込む。

最初は、ジャズ。吹奏楽が、盛んな浜松、楽器メーカーも多く、当時、駅周辺で、ストリートジャズライブを開催していた。手伝ってや！と、それが、今のジャズウィーク（34回・アマチュア部門サポート）に繋がる。次にフォーク、浜名湖花博が終了し、ステージが残ったあのステージで歌いたい４人仲間が集まった。肝心のステージ回しがいない、声がかかる浜名湖フォークフェスティバル（ＨＦＪ17回、ＨＦＦ３回）である。その2年後、音楽で街中を活性させよう、これまた、手伝ってと次々に舞い込む。やらまいかフェスティバル（全ジャンル18回）である。

この音楽イベントのサポート業務が、若い頃のお客さんへの恩返しともなった。見方を変えれば、この触れ合いが、セカンドライフに大いに役に立った。

そして現在８０代「この１００年時代をどう生きるか」マスメディアの文字が、気になる。幸い定年間近より、このままでは、会社仲間だけでは、知り合いは少ないと触れ合いを求めて、その頃、異業種交流が、盛んなことも幸い、ビジネスマンクラブ→無名会・遠来人の会→めだかの学校と次々入会、知り合い仲間を増やした。そこでの繋がりから、陶芸教室に誘われ、自然農法同好会にも入った。そば打ちもめだかの学校の仲間が、各地の催事で、やっているのを見て何でも好奇心と教室に通い、仲間に入った。また、時々行く美術展から、版画も面白そうと70代から、始めた。考えてみれば、めだか基本精神「好奇心と遊び心、そして挑戦」だ。

なんかワクワクする…。常に好奇心、それに挑戦！　わたしを変えたことかな。



めだかの学校伝言板

第133回めだかの学校を開校するので出席しなさい。
校　長／中村明男
教　頭／山中幸子
用務員／白尾恂
給食係／※給食は取り寄せです。

＜学舎＞　静岡県周智郡森町一宮3150
「一宮総合センター」

※コロナはまだ収まっていませんが、
マスクは自由です。

開校日／令和８年12月５日（土）正午～
受　付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄（後見人）
34期通年テーマ：
『新しい自分を発見…？！』
今回のテーマ：
≪「私をかえたこと」「私をかえたひと」≫
＜時間割＞
●１時間目　社会　埋田千聡 先生
「？　？　？」
●２時間目　国語　横山忠志 先生
「？　？　？」
※どんな授業になるか楽しみですね！
●給食は取り寄せです。　PM3：00 閉校

■全国まちづくり交流会 in 新庄村

10月24・25日、岡山県新庄村で開催された全国まちづくり交流会に参加した。2003年に愛知県足助町で始まったこの交流会は、20余年を経て一度幕を下ろしたが、その余韻なのか昨年の足助、そして今年の新庄村と開催が続いた。

新庄村は人口753人。かつて山陰と山陽を結ぶ出雲街道の宿場町として栄え、昭和55年には約1400人が暮らしていた。宿泊施設が少なく、集会場も宿泊場所に充てられた。全国から64名、受入れ側も27名が参加した。

先月就任したばかりの石藤延史村長は、「当たり前の暮らし」を守ることが村の役割と語り、「現場主義」「対話」「挑戦」を基本姿勢に掲げた。

続いて村民による活動紹介。「おたがいさまの会」は、村民が提供する野菜や米を岡山市内の子育て家庭 120世帯に届け、村内では高齢者への弁当配達も行う。サルナシ栽培研究所は特産品の栽培や商品開発に挑戦。一般社団法人むらづくり新庄村は、古民家宿の運営や地域おこし協力隊の支援などに取り組む。

懇親会は地元の皆さんがもてなすBBQ。締めは恒例、阿波勝浦井戸端塾による阿波踊りだ。踊りの輪が広がり、交流会の一体感を感じるひとときとなった。



2日間とも雨にたたられ、翌日の大宴会は予定を繰り上げて終了。宿泊したのはサルナシ栽培研究所の臼井会長が営む古民家民宿。翌朝は西方寺で座禅を組み、農家レストランで朝食、その後まち歩きへ。「がいせん桜通り」は江戸時代の宿場町。明治39年、日露戦争の戦勝を記念して137本の桜が植えられた。古い町家と水路、桜並木、そして村人の暮らしが重なり合う美しい歴史的景観だ。

帰路、道の駅で特産の「ひめのもち」を求め、岡山駅へ。次回は奈良県宇陀市での開催が検討されている。（溝口久メダカ）

■第38回いなさ人形劇まつり

第38回浜松市いなさ人形劇まつりが、11月14日(土)・15日(日)の2日間、引佐町多目的研修センター、浜松市浜名区引佐町の浜松市引佐支所、引佐多目的センターで、人形劇団京芸、人形劇団とんがらし、人形劇団プーク、人形劇団ぶんぶく、など14のプロ劇団と引佐人形劇団りゅうぐうこぞう、浜松学院大学短期大学部サークルありんこなど4つのアマチュア劇団が公演する。又野外ステージやいなさふれあいマルシェなどがある。ぜひ見に来てね！。問合せは、引佐人形劇まつり実行委員会、053・542・1112へ。

この「人形劇まつり」には、めだかの学校言い出しっぺの故伊藤茂男メダカ、故平山豊メダカ、私バラメダカが立ち上げから大いに関わっている。当時の引佐町の商工観光課長の伊藤茂男さんから、静岡新聞のバラさんに一本の電話が…。バラさんは人形劇団を主宰し、静岡県人形劇協会の相談役。2人は意気投合し、人形劇まつりへと…。なんとバラさん、その4年後静岡新聞を早期退職し、引佐町の住民になってしまいました。

それから5年後には「めだかの学校」できてしまいました。人と人とのご縁って面白いですね。（笑）

■「第31回全国棚田(千枚田)サミット in はままつ」の日程が決まる

「第31回全国棚田(千枚田)サミット in はままつ」が11月14日(土)、15日(日)の2日間、浜松市駅前の「アクトシティ浜松」を主会場に開催される。テーマは「小さな棚田から日本を元気に！棚田は感動のステージ！つながる奏でる地域の未来に！」舞台となるのは久留女木(浜名区)、白櫃(同)、大栗安(天竜区)の各棚田。各棚田は小規模でありながら耕作者育成や復田など多様な活動に取り組む点を反映、また「音楽の都・浜松」を連想する言葉もテーマに盛り込められた。

めだかの学校の、鈴木一記メダカが関わっている。開催された内容は、次回の「めだかの便り」で掲載できるかも。お楽しみに。

『人・ひと・ヒト…だより』

●磐田市の大島たまよメダカ。何年かぶりの校長先生、おつとめさせて頂きます。暑い暑いと言っている間に季節が移り、こうしてペンを持ってお便りするという行為がいかに贅沢で豊かな時間である事か。昔の人は「時」の使い方をちゃんと心得ていた気がします。だって。ほんとだね。毎回一筆箋にひと言を書いているけど、時間もかかるけど大切な時間だと思ってる。

●東京都のかまちよしろうメダカ。来年で35周年ですか?。いろいろな人の力があって継続してるんだなあと思います。35周年、全国のめだかたちが小國神社に集まるのですね。楽しみにしています。だって。夏になると不意によみがえるのは、子どものころ用水で泳いだりして、用水のそばの田んぼに足を踏み入れ時の“あの”感触です。太陽にあたためられた土のにおい、目で見た風景よりも他の五感の記憶がよみがえりいつまでも忘れられないのです。同窓会等で帰郷した時は、夏田んぼ直行です、とも。旧豊岡村時代の、今にも残る感触、ふる里はいいですね。

●小田原市の溝口久メダカ。近況報告・飛鳥Ⅱに乗ってねぶたと秋田竿燈まつりを見てきました。仕事は変わらず小山町、松田町(神奈川県)、境町(茨城県)の参与をしています。これからの講演予定3本。旅行は中津、埼玉、境町、高雄山、今治、大阪の6本を予定。全国まちづくり交流会 in 新庄村は行ったことのない村なので行くことにしました。また11月14日に我が家でオペラコンサート予定。年内にもう一度クルーズ船に乗るつもりです。野村諒子さんが、溝口さんのようにいきませんが、と書かれていましたが、自分でもそう思います。生きている限り全力で過ごしていきたいものです。8月13日現在、1月1日からの我が家の来客は439人。1月1日からの旅含め外泊40泊。めだかの学校の皆様もお越しくださいませ、だって。いや～大したものですヨ。まさに全力だね。でもちょっと余裕もみえるようだからまあいいか。(笑)。

●埼玉県所沢市の木村智子メダカ。年に1度の近況報告をお送りします。清瀬で関わっている公園がマイガーデンというガーデニング雑誌で取り上げていただいたのでその記事と、今は理事をしているグリーンワークス(NPO 法人)の記事を同封します。9月はたまちゃんが校長先生とのことで行きたかったけれど、仕事がかぶってダメでした(涙)。AIも便利ですが、やはり人とのつながりが大切とますます思います。花で人をつなげることをしています、だって。今年で20周年を迎える NPO 法人グリーンワーク

スの皆さんと笑顔いっぱいの智ちゃん。まさに「みどりのあふれるまちで人と自然が仲良くでき、誰もが幸せに暮らせる社会」を目指す皆さんは凄いなぁ。写真と記事をみれば、ワクワク感が伝わってくるヨ。男性は居ないの？(笑)

●藤枝市の小島良之メダカ。めだかの学校は、平成5年からですが、一体自分がいつごろから関わったのか判然としません。調べてみたのですが見つかりませんでした。めだかの学校を見習ったと言う訳ではありませんが、仲間と学び合う場を自分たちで持ちたいと、私も平成18年から「古代の智慧を学ぶ会」を20年続けていて、7月で230回となりました。100回位までは古代の智慧でしたが、現在では今を楽しく生き抜くための智慧の会みたいな感じに内容が変化して、7人程度の会ですが続けています。7月の第230回の学ぶ会は、美輪明宏さんが6月20日逝去されたので、美輪明宏「愛のモヤモヤ相談室」と「日本のキャラクター文化」を取り上げています。また最近の生活は、月1回のむるぶの記事の取材と原稿書き、編集会議への出席。月1回の講座の講師の準備と講師としての講演がメインですが、その間にまち歩きの講師や単発の講演・行政関係の各種会議、趣味の司会の出席と講座の担当。年2回の俳句誌の発行など、楽しくすごしています、だって。いや～多忙だねぇ。1日18時間の営業日の日々？とか。さて、小嶋メダカがめだかの学校と関わりをもったのは、平成9年1月23・24日引佐町の奥山方広寺で開催された「三遠南信地域フォーラムinいなさ」から。6月に入校しています。平成11年2月12・13日、引佐町の観音山少年自然の家での「私たちは21世紀に何をのこすか?!」特別講座「人類の遺産」の講師もしていますヨ。調べました(笑)。

●掛川市の鳥山剛メダカ。8月13日で80歳になりました。静岡新聞がオクシズ多摩川地区での〝葉っぱビジネズ〟を紹介していました。おばあちゃん達が葉っぱを採取してパック詰めをして出荷する取り組みです。昔バラさんが山野草研究家の篠原準八先生(メダカ生)の指導で始めた、いなさ自然休養村の山野草料理「つみくさ」を思い起こしました。平均82歳の渋川の人達が山野草を提供してくれ、その活動を平成20年総務庁が全国表彰してくれました。これが「めだかの学校」の始まりです。関係者のほとんど亡くなりましたが、私とバラさん二人で頑張っています。あと何年生きるか分かりませんが、最近はめだかの学校が人生の生きがいになりました、だって。いやいや知っているのは私と鳥さんだけではないですヨ。まだまだ何人かいます。天上界へ逝った人が多くなりましたが(笑)…

●浜松市の大谷洋介メダカ。お便りありがとう。前回は出席できませんでしたが、9月6日第132回には出席を致します。よろしく！〟追〝名前の訂正ありがとう。もう30年も越しているものネ。つみくさ時代が懐かしいけど、廻りが皆んな居なくなってしまって、長生きができることってつらいよネ、かな？だって。天上界の仲間達は笑いながら「まだ来るな！」と言ってるヨ。

●磐田市の島田尚子メダカ。「めだかの学校だより」有難うございます。記事に目を通し、名前を読めば〝あっ、あの人だ〟と思い浮かび、元気に活躍していることを知り、うれしい気持ちになります。しかし、欠席の常習者でして、当然のことながら、名前を見ても思い浮かべることのできない人もいます。けれども働きざかりや若い人と思われる人達の記事を読むのも〝元気なメダカが泳いでいると、又違ったうれしさがあります、だって。出席できなくてもなんらかな形で関わってくれてうれしいです。

●浜松市の中村明男メダカ。やっとカミさんがスマホを使いだし、そのフォローが大変。電話をかける、切る、LINEのやりとり。初歩的なことを改めて確認されるとドタバタしてしまう。ボケ防止も含めてやっとスタートした、だって。奥さん孝行も大切だヨ。ふたりしてボケ防止いいねぇ(笑)。

●袋井市の山中幸子メダカ。お盆行事も終わり、足腰丈夫で一生を終わりたいと、カーブスに通い始めました。車の運転ができなくなったらメダカにも行けない。チョット お使いにも行けない、もう少し頑張りたいと思っている日々、だって。そうだね、足腰弱くなって車の運転ができなくなると大変だもんね。気分は前向き、気持ちも前向き。

●磐田市の鈴木祐之メダカ。「第132回めだかの学校」今回も欠席させて頂きます。残念無念、仕事です。「働いてはたらいてハタライテ」ではないですが、資格者の職業柄いたしかたないです。日曜日の臨時課外授業か夜間学校を期待しております。副実行委員長でしたらお手伝いできるかもしれません。来年は35周年記念式典が実施されるようで楽しみにしております。また第34期の入学を希望します。来期もなかなか本会には出来ない事情はありますが、35周年記念事業と休日主催の課外授業には参加します、とも。昨年の信州遠山郷のバス旅行を兼ねた特別授業には、ひとりひとりに菓子袋を用意してくれたっけね(笑)。

●森町の村松幸範メダカ。諸事繁多の上に酷暑で柿の手入れが遅れています。近日中に摘果を終えなければと思っています。カメ虫も発生し始めましたのでその対策も。今年も品評会最高位と献上柿を目指していますので！学校は継続したいと思っています。退学にしないでくださいね、だって。いやいや退学させませんヨ。優秀な生徒だし(笑)。でも継続申込書はまだだヨ。待ってますね(笑)。

●磐田市の高塚静子メダカ。暑い日が続いています。そんな中、熊本で地震、本当に自然の力の大きさを感じております。いつもお知らせをありがとうございます。なかなか参加できず、皆さんとごあいさつすることもなく本当に心苦しく残念ですが、今回で退会させていただきます。会のこれからの発展とご盛況をお祈りいたします、だって。淋しいけど止むを得ないね。議員の方、頑張ってね。応援しています。

〔新入生紹介〕

●磐田市の井熊由美子メダカ。〝めだかの学校〟のお話を聞いて「おもしろそう！」と思いました。参加してみないと分かりませんが、今後の自分の糧となり、人脈の広がりを期待している、だって。また18年続けているフラダンス、ピアノや料理、暇ができたらホームパーティ開きたいとも。

〔訃報〕

●静岡市駿河区の小野田全宏メダカが8月15日午後1時35分に亡くなりました。享年79歳。小野田メダカは、長く静岡県ボランティア協会の事務局長、理事長などを経験し、めだかの学校にも開校時から関わってくれました。最近はボランティア協会の仕事が忙しくて出席がなかったのですが、私とは何らかの形でつながっていました。ご冥福をお祈りいたします。淋しいね。でも今は天上界の仲間たちと会ってるね。きっと。

（バラメダカ）

×××　×××

紙面の都合で多くの原稿を載せることができませんでした。ごめんなさい。でも時々ハガキかLINE、FAXでお便りくださいね。

《お知らせ》

めだか春秋は今回もお休みします。

■事務局だより

朝晩はめっきり涼しくなりました。皆さんはいかがお過ごしですか？。秋と言えば暇をみては洗剤入りバケツをもってゴム手袋とホウキで『このー！』とばかりカメムシ採り。そう、今年はカメムシが大発生とか。我が家のトネリコの木にびっしり！。採っても取ってもやってくる。いや～笑えます。柿やみかんの農家の人は大変！。

さて、第132回めだかの学校は9月5日の土曜日。校長大島たまよ、教頭田村進治、用務員浅岡道範の磐田トリオ。34期は期初特別授業。通年テーマは『新しい自分を発見って…⁉』、第132回のテーマは≪私をかえたひとこと≫。1人3分の講義の特別授業。どれだけの生徒が「自分をかえたひとこと」の課題に沿って講義ができるか楽しみだったが…結果は後程に。

正午開始の開校だが、10分ほど遅らせて始める。今回は期初開校であるので『建学の精神（こころ）』を唱和する。新入生は井熊由美子さん。ちょっぴり花があるなァ（笑）。

給食の時間は10分遅れているので12時30分から。おなじみの古澤屋さんのお弁当。工夫されていて美味しかったね。給食のあとは全員での写真撮影。「こちらをみて、いくわよ」と、タイマーで『ハイ、パチリ！』。

1時10分からの校長訓話。近年、ＡＩが発展して仕事や音楽、文章などが作られたりしている。子どもの知識は増すが本物を理解することは…。民俗学者の柳田国男は歩いて歩いて日本人は何者かを追求。他の民俗学者は、日々の暮らしの器にこそ美があり、伝統芸能など、本物は人々の暮らしの中にある。…秋葉信仰や自然への畏敬、掛塚湊と天竜川、遠州地方の伝統と織物、現代の名工…。データ化されない、ＡＩ時代にこそ本物に価値を見出すことが大切だ、など多岐にわたって語る。。いい話なので埋田千聡さんに録画、編集してもらってユーチューブで流す。コメントを寄せる人が何人かいたね。



1時20分からの事務局からのお知らせは、鈴木一記メダカが、11月に浜松市で開催される全国棚田サミットの話をしたいというので話してもらう。

1時30分からの1人3分の特別授業「自分をかえたひとこと」について円陣を組んで話し合った。テーマを決められると、いや～なかなか難しい。ズレる人もいるし、3分では語り切れずオーバーの人も何人かいたし、私も、（笑）。これも録画してあとで見直したら面白かったかも。



3時からの私語飲食全て禁止の『次回三役発表』は、第133回校長中村明男、教頭山中幸子、用務員白尾恂で決まる。いや～楽しみです。3時10分からの「今日の日はさようなら」を歌いつつ、握手しながらの再会！は、去り難い思いを残しながら…。

3時25分みんなで片付けながらお別れを。閉校時間は3時30分だった。楽しかった。

第133回めだかの学校の職員会議を、10月17日（土）10時から学舎で開く。出席者は中村明男校長、山中幸子教頭、白尾恂用務員の3役と、石野省三、松本芳廣、田村進治、榊原淑友、事務局榊原幸雄の8名。大島たまよ、埋田千聡はイベントのため欠席。第133回のテーマと授業について話し合う。毎度のことながら、皆んなが集まるまで雑談。淑友さんが用意してくれた茶葉を、石野さんと山中さんが試行錯誤？しながらお茶を入れてくれた。美味しい水出し無農薬茶ですぞ！11時近くなったので全員集らないが、役のあいさつから始める。今期の通年テーマが『新しい自分を発見って…⁉』と、前回のテーマが≪私をかえたひとこと≫と、「建学の精神」絡みであるので今回もそれに沿って検討。結果は。≪「私をかえたこと」「私をかえたひと」≫に。授業の方は、埋田千聡さんが手をあげていたので、埋田千聡さんと、もうひとりは、まだ先生をやっていない横山忠志さんは？。いい絵を描くし、いいコピーも書くからと、横山忠志さんに決める。LINE で電話したら（スマホ絵文字）」の返信。ＯＫと言うことで、題名のところは「？？？」にして、社会「？？？」埋田千聡先生、国語「？？？」横山忠志先生に、2人の先生には自由に話してもらうことにしました。



■第34期の申込み受け付けています

第34期は、令和8年9月1日から令和9年8月31日までです。10月25日現在50名が申込みを済ませています。毎年度手続きが必要です。手続きを怠ると自主退学扱いとなり、名簿から外れます。気をつけてください。まだ未提出の生徒には申込書を同封します。必ずですぞ！忘れずに。新入生の申込みは随時受け付けています。ご紹介を！若い人もいいですね。

■今回も遅れました、ごめんなさい

いつも原稿メール打ちの、石野省三メダカ、大島たまよメダカ、水島加寿代メダカ、秋山勝則メダカ、村田徳治メダカ、今回は溝口久メダカも、写真の埋田千聡メダカ、まとめてくださる間渕亮太メダカ、発送などの手伝いの榊原明美さん、ありがとう！

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、令和9年2月1日予定。締め切りは1月15日です。なんでも結構です。みなさんの日頃の活動をお手紙・ＦＡＸ・ＬＩＮＥ・ＦＢで。メールの方は、

≪ mavun.f100@gmail.com ≫

間渕亮太090・5009・0986です。

（アドレスが変わりました。昔のアドレスは使用不可。）

■めだかの学校の事務局

〒438・0105静岡県磐田市家田529番地20　榊原幸雄方　ＴＥＬ　0539・62・6691（ＦＡＸ同じ）

※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話　0538・89・7730　開校日の午前11時以降のみ使用可。

携帯　080・1612・9130

